

# 御前崎小学校のまわりのようす



## 1. 駒形神社

駒形神社の歴史は古く、社がつくられたのは聖武天皇時代（701～756）といわれています。また、大化の改新（645）ごろ、御前崎・白羽地区の大部分に牧場があり、その「駒」は馬を意味し、牧場との関連が想像できます。



駒形神社社殿

### 駒形神社本殿 **市指定有形文化財**

元亀2年（1571）には、武田軍との戦いにより社殿が焼け落ちたといわれ、江戸時代の初めに再建されました。その社殿は、江戸時代の寺社建築の基本的構造を今に残しています。地域の人々には、漁業の守り神として信仰されています。江戸時代までは「駒形大明神」と呼ばれていましたが、明治元年に「駒形神社」となりました。

御前崎の歴史を知る上で、「本殿」、拝殿内に飾ってある「千羽の鶴」、境内にある建物には「小早船（八丁櫓）の模型」など見るべきものが多くあります。



「千羽の鶴」の絵 **市指定有形文化財**



小早船（八丁櫓）の模型

\***厩牧令**：大宝元年（701）、大宝律令のひとつで、全国に国営の牛馬を育てる牧場（官牧）が39か所設けられました。



P18参照

本文中にある「国・県・市指定有形文化財」とは、国や県、市の歴史を知る上でとても重要であるものを指定し、大切に保護、保管されている文化財です。



## 2. 海福寺

海福寺は、天延2年（974）につくられたと伝えられる曹洞宗の寺です。

サツマイモを遠州地方に広めたいもじいさんの記念碑や樹齢200年以上の大きなイチヨウの木、魚藍観音菩薩があります。



海福寺とイチヨウの木



乳房に似た気根

### イチヨウの木 **市指定天然記念物**

樹齢200年以上と推定される大きなイチヨウの木は、高さ13m以上、周囲は4m近くあります。頭上数m付近に、乳房に似た気根が垂れ下がり、「乳の木」「お産や母乳の願掛けの木」として親しまれています。

## いもじいさんの碑 **一大澤権右衛門**

石碑によれば、明和3年（1766）薩摩藩（鹿児島県）の御用船豊徳丸が御前崎沖で遭難して20数名の乗員が水死しそうになった時、権右衛門親子が必死の救助活動を行いました。そのお礼として薩摩藩は、金20両を贈ろうとしました。しかし、権右衛門は「海で暮らすものとして当然のことをしたまで」と固く断わり、かわりに船中にあったサツマイモを望みました。薩摩藩ではサツマイモは藩の外には絶対に出してはならない物でしたが、権右衛門の献身的な働きとそのまじめさやうたれた役人は、藩の掟を破ってサツマイモとその栽培法を教えました。

こうしてサツマイモは、この地方に広がり、その後代表作物となりました。



いもじいさんの石塔と石碑

**市指定有形文化財**

## 3. 遍照院観音堂跡・十一面観音菩薩立像

駒形神社の近くに遍照院という寺がありました（元々は別の場所にあったといわれています）が、いつのころかあれ果ててしまいました。その寺にあった十一面観音菩薩立像が納められた観音堂が境内にありましたが、古くいたんできたため像は海福寺に移され、観音堂は平成16年（2004）に取り壊されました。



遍照院観音堂跡



取り壊し前の遍照院観音堂

### 十一面観音菩薩立像 **県指定有形文化財**

十一面観音菩薩立像は、弘法大師（空海）の作と伝えられています。延宝年間（1673～1680）に僧空性が高野山から大切に持ってきたといわれています。平安時代に造られ、高さ4尺5寸（約135cm）です。一本の木を彫って造られたものです。

十一面観音菩薩：頭の上に十ないし十一の観音様の顔がのっています。それぞれ顔は悲しんだり、怒ったり、笑っている顔をしています。



十一面観音菩薩立像

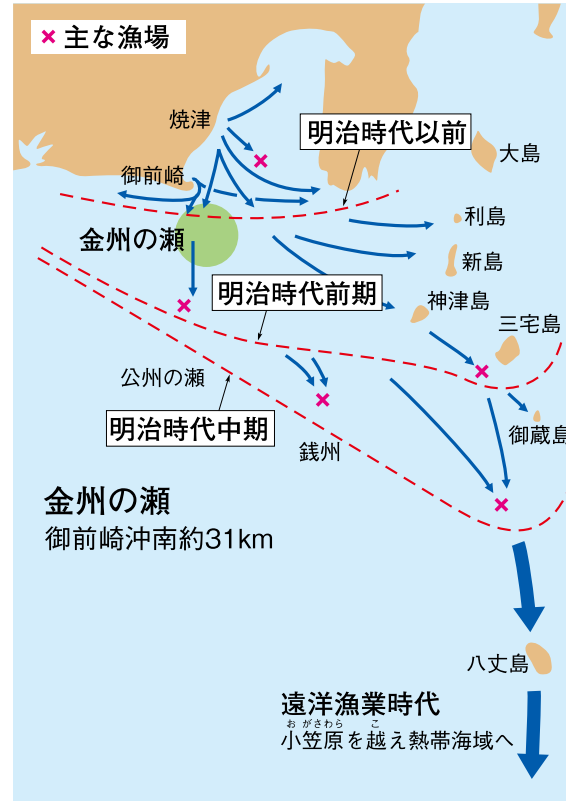


## 4. 御前崎港の歴史

昔、御前崎には港がなく、砂浜での魚の水揚げは主婦の仕事として家族総出でにぎわいました。御前崎港は昭和23年（1948）から工事が始まり、遠洋漁業の基地として発展しました。

その後、昭和50年（1975）に重要港湾の指定を受け国内外との貿易港として発展しています。現在では御前崎港ができ、静岡県西部の玄関口として発展しています。

時代	漁の方法
古代・中世	網漁を中心としたカツオ漁 鰹節として朝廷に納めた
江戸時代	カツオの一本釣り漁
明治時代	沖合（金州の瀬）での漁
明治時代後半	遠洋での漁



カツオを計っている風景  
昭和25年（1950）



みさき丸でカツオ釣りの練習をする中学生  
昭和36年（1961）



現在（平成27年）の御前崎港、御前崎漁港

### トピック

#### 下村勝次郎—御前崎近代化の父—

約100年前の話です。それまでの魯で漕ぐ船を勝次郎は洋式動力船にしました。まさに遠洋漁業発展の父といえるでしょう。また、御前崎に電灯を送る事業も行いました。



## 5. 御前埼灯台の歴史

### 灯台の移り変わり

ここ御前崎は、地形の関係上、天候の変化が激しく、また岩場が多いので昔から航海の難所と恐れられ多くの海難事故が発生しました。今から約370年前の寛永12年（1635）に徳川幕府が船の道しるべとして、この地に灯台の元祖ともいえるあんどん型の見尾火燈明堂を建てたのが御前埼灯台のはじめです。



ガラス張り燈明台（斉藤力画）

カンテラ灯台  
明治4年（1872）



復元された燈明堂

燈明堂は植物の種から取った油を使い、およそ240年の長い間火をともし続けましたが、風や雨の強い日には役に立たなかったため、難破船が後を絶たなかったといえます。

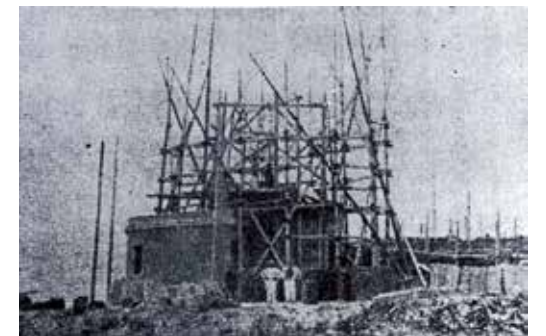
### レンガづくりの洋式灯台の建設



リチャード・ヘンリー・ブラントン

明治5年（1872）5月、イギリス人リチャード・ヘンリー・ブラントンの指導のもと現在の西洋式灯台の建設工事を開始し、明治7年（1874）5月1日に点灯を開始しました。

回転式の1等閃光レンズ（高さ259cm）を使用した灯台としては我が国最初のものでした。



つくっている時の様子



### 現在の灯台

最初のころのレンズは太平洋戦争の時に壊されて、現在は3等大型レンズ（高さ157cm）に変わっています。内側がレンガづくりの灯台は、建設以来130年以上の歴史があります。



現在の灯台



# 6. アカウミガメ

## 御前崎のウミガメおよびその産卵地

御前崎では、昔から、「カメの枕の大漁」といういい伝えがあり、ウミガメは大漁の神として大切にされてきました。毎年5月下旬から8月にかけて、約100頭のアカウミガメが産卵のために御前崎海岸に上陸し、直径約45mmのピンポン玉状の白い卵を生みます。

御前崎市ウミガメ保護監視員が長年にわたり地道な保護活動を行っています。また、御前崎小学校では、市のアカウミガメふ化場でふ化した子ガメのうち約30匹を約10か月にわたり飼育し、成長したアカウミガメを海に放流します。さらに海岸をきれいにする活動（クリーン作戦）も行っています。最近では、砂浜の減少やゴミの増加でアカウミガメの産卵も少なくなっています。

国指定天然記念物



アカウミガメ

### 【年表】アカウミガメのために取り組んできたこと

昭和46年	御前崎町教育委員会保護開始
昭和47年	町に2名の保護監視員設置 県文化財保護指導員2名体制
昭和52年	静岡県の指定天然記念物となる 御前崎小学校観察クラブ員人工ふ化に成功
昭和54年	人工ふ化場造成
昭和55年	「御前崎のウミガメ及びその産卵地」が 国指定の天然記念物となる
昭和59年	町所有地に新人工ふ化場完成 御前崎のウミガメ及びその産卵地保護増殖 ふ化場設置工事
昭和60年	御前崎小学校5年生全員が「カメ当番」として 飼育にあたる
平成9・10年	ふ化場前海岸清掃工事实施 天然記念物保護増殖事業アカウミガメ産卵場 清掃工事
平成11年	第10回日本ウミガメ会議開催
平成13年	県道佐倉御前崎港線の道路照明を 低圧ナトリウム灯に変更 第2ふ化場の増設
平成14年	堆砂垣の施工 産卵・放流観察会の実施
平成18・19年	御前崎小学校のカメ小屋水槽に洗浄装置、 補助電力設置
平成20年	ふ化場の改修工事を行う
平成24年	長年の活動が認められ、市ウミガメ保護監視 員会が県知事表彰を受ける。
平成26年	アカウミガメが、県指定希少野生動植物に 指定される。



アカウミガメの放流（御前崎小）



アカウミガメふ化場



ウミガメ保護監視員の方々

# 白羽小学校のまわりのようす





# 1. 白羽神社 (本殿 市指定有形文化財)

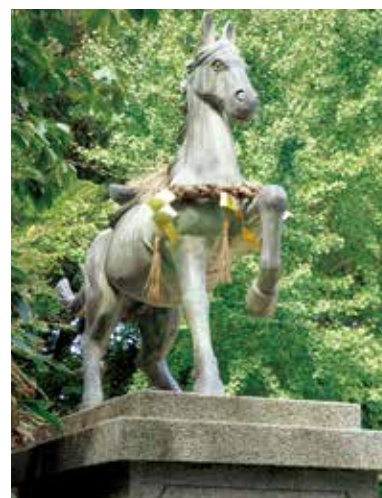
白羽神社は海陸安全・産業繁盛の神を祀っています。本殿がつけられたのは江戸時代中期から後期前半ごろといわれています。本殿は、日本の伝統的屋根形式のひとつである入母屋造りを用いています。由緒については明らかではありませんが、大化の改新以後の厩牧令の制定により「白羽官牧(牧場)」が置かれ、その官牧と関係が深いと思われる神社の一つだと考えられます。



白羽神社拝殿・本殿



P11参照



軍馬の像

また、一説では、駒形神社との関係が深いといわれています。そのため、白羽神社は、今日まで馬の守護神として尊敬され、境内には見事な軍馬の像があります。

## 武田家朱印状 (市指定有形文化財)

下の写真の武田家朱印状は、この地方を徳川氏と武田氏が争っていたころ、武田氏がこの地方を治めようとした文書です。この3枚の文書には、「社領安堵(寺社の土地の所有権を認める)」、「神職の赦免(神主の罪を許す)」、「武田家の武運長久祈願(武田家の武力がいつまでも強いことを願う)」、「白羽郷民(村民)の日常生活の注意書」などが書かれています。

**武田信玄**：甲斐の国(山梨県)の武将で「風林火山」を旗印にした戦国時代を代表する大名の一人です。また、勝頼は信玄の子供です。越後の上杉謙信との5回にわたる川中島の戦いは有名です。



信玄印判状



勝頼印判状禁制



勝頼印判状

# 2. 星の糞遺跡 (市指定史跡)

御前崎中学校の西南白羽鳥居原の茶園地帯にある星の糞遺跡は約6,000~5,000年前の遺跡で、白羽神社の宮司で、考古学に詳しく高山建吉氏によって発見されました。

昭和52年(1977)には、各地の大学生や近くの学校の先生、生徒の協力で、大規模な発掘調査が行われました。

この遺跡の発掘により、約6,000~5,000年前の遠い昔に、縄文文化をもった人たちの、漁、狩中心の生活が、この地方で営まれていたことがわかってきました。



星の糞遺跡

## 星の糞と呼ばれるわけ

「星の糞」の起源は、この遺跡から出土する黒曜石の石器や、その破片が日光を受けて、きらきらとかがやき、まるで天から降ってきたように見えたことから、昔の人がそれを星の糞と呼んだのが始まりであろうと考えられています。



発掘作業の様子

## 出土石器

出土石器類は、石槍、石棒、石皿、耳飾など、日用品や漁・狩用具等さまざまですが、偏平な両端を欠いてつくったたくさんの石錘(おもり)がありました。これらの石錘から、網漁が行われた様子がうかがわれ、この遺跡の特色のひとつといえるでしょう。

黒曜石とは日本の旧石器、縄文時代の遺跡を中心に、石器の石材として多用されていました。星の糞遺跡の黒曜石の約90%は伊豆の神津島産です。



珠状耳飾



礫石錘



黒曜石



### 3. 紅雲寺

紅雲寺は、天長5年（828）につくられた曹洞宗の寺です。

本尊は十一面観音菩薩です。他にも、薬師三尊（薬師如来立像、日光・月光菩薩立像）や十二神将立像があります。

紅雲寺は、遠江十二支霊場の一つで、別名「さつき寺」とも呼ばれ、本堂裏山斜面に古木のさつきが群生し、毎年5月下旬より花の見ごろとなります。

また本堂前の境内には「たぶの木」が大きく枝を張り寺院の歴史を見守っていましたが、台風の影響で枝が折れ、現在の形になっています。



紅雲寺のたぶの木



日光・月光菩薩立像

市指定有形文化財



十二神将立像

### 4. 増船寺

増船寺は、天文9年（1540）につくられた曹洞宗の寺です。寺の本堂には、地藏菩薩尊像や石造十一面観音立像があります。



増船寺本堂



地藏菩薩尊像

市指定有形文化財



伝 円山応挙 幽霊の絵

#### ◆伝 円山応挙（1733～95）の幽霊画

もともとは作者不明でしたが、昭和3年（1929）、宮地直一博士の鑑定により応挙作と伝えられています。本堂横に複製が展示されています。

### 5. 万葉の歌碑

遠江 白羽の磯と にへの浦と  
あひてしあらば 言も通はむ

防人として筑紫に旅立つ丈部川相（現在の袋井市出身）が『遠江の白羽の磯と筑前にへの浦とが近くにあれば、会って話もできるのに』と、ふるさとの遠江を懐かしんで詠んだ歌です。



万葉の歌碑

- \* 『万葉集』とは、7世紀後半から8世紀後半ごろにかけてつくられた、日本に現存する最古の歌集です。天皇、貴族から下級官人、防人など様々な身分の人々が詠んだ歌を4,500首以上も集めたもので、成立は天平宝字3年（759）以後と見られています。
- \* 防人は大化の改新以後、九州を防衛するために派遣された人たちです。奈良時代に成立した『万葉集』には防人のために集められた兵や、その家族が詠んだ歌が100首以上収録されており、防人歌と総称されています。関東地方などの東国の言葉が使われている事も多く、東歌とともに古代の生活様相を伝えています。



### トピック

#### 栗林庄蔵—切干じいさん—

約200年前の出来事です。

大澤権右衛門によって、遠州地方に広がったサツマイモですが、傷みやすく、長期の保存が困難でした。畑に山のように積まれたサツマイモを眺めながら「これが腐らなければどんなに助かるだろうに。」とっている村人の嘆きを聞いて、栗林庄蔵はいいアイデアはないかと考えました。そして、サツマイモを乾燥させることを思いつき、サツマイモを薄く切って乾燥させ、「白切り干し」を作りました。臼について粉にし、水でこねて蒸すとおいしいお菓子になりました。庄蔵は、それを「お日和芋」と名付け、たくさん売ることに成功しました。

その後、「お日和芋」の人气がなくなりましたが、庄蔵はあきらめずに、その商品に合った芋を探し、「煮切り干し」を考えました。この庄蔵の努力が、今の「芋切り干し」につながっています。



栗林庄蔵の碑



芋の皮むき



## 6. 村上開墾の碑

新神子地区の温室団地の近くに海岸砂地の開墾事業を進めた村上政忠の碑が建っています。

明治の初めごろまで、この辺り一帯は砂丘で、作物が全く育たない土地でした。

静岡藩士山岡鉄太郎（鉄舟）門下、村上俊五郎政忠は、白羽海岸一帯の荒れた土地の開墾を計画し、堤防を築き砂防を施し区画整理に着手しました。

この開墾事業は完成には至りませんでした、その後多くの人の手により数百haに及ぶ農地ができ、今でも地域の人から「開墾」や「新開」と呼ばれています。



村上政忠之碑

## 7. 石原ため池

御前崎・白羽地区では、唯一のため池です。白浜・新神子地区の水田のかんがい用水として、江戸時代の初期にはすでに存在していたことが古文書からも明らかです。

また、農業用水としての活用ばかりではなく、鯉や鮒の養殖が行われたり、子どもたちの遊び場や地域住民のふれあいの場として、親しまれてきました。

ため池は、貴重な農業用水源であるとともに、洪水が起こらないように雨水を調整したり、非常時の緊急用水として、重要な役割を果たしています。また、多様な動植物の生息の場でもあります。



石原ため池

## トピック

### 白羽の風蝕礫産地 国指定天然記念物

遠州灘海岸に突出する白羽の尾高地域には三方の吹き上げられる強い風によってできた「風蝕礫（三稜石）」と呼ばれる珍しい石があり、学術上貴重なものです。



風蝕礫

## 第一小学校のまわりのようす





# 1. 高松神社 (本殿 市指定有形文化財)

高松神社は、大宝元年（701）に建てられたといわれています。和歌山県の熊野三社の「新宮」にあたる神社です。本殿には、獅子や象、波などのもようの彫刻がほどこされています。

毎年10月初めに行われる祭典では、収穫のお祝いや家内安全、地域の繁栄を神に奉納する相撲大会が行われます。地元小学生が参加する子供相撲や、門屋、塩原、合戸、河東4地区の若者の力士による迫力ある相撲が行われます。130年近い歴史があり、力強い本格的な取組は見ごたえがあります。

宮司の中山家には、古文書が残っています。



高松神社社殿と本殿の彫刻

# 2. 下水神社

下水神社は慶長10年（1605）に建てられました。当時、神社の西側一帯に広がっていた「新野池」のはんらんなどを鎮めるために水の神を祀り、下朝比奈と池新田の両方の村で下水神社を建てました。右の写真のように、両方の神社とも「水」がついている通り、河川のはんらんと日照りの災害から守るために建てられました。新野地区にある上水神社の注連縄には、子孫繁栄の意味を込めてホンダワラという海草がつるされています。



上水神社（新野地区）



下水神社（池新田地区）

# 3. 東泉寺

東泉寺は天正9年（1581）につくられた寺です。江戸時代から続く池新田地区の旧家の墓があります。その中でも、池新田村をおこした本間家の墓は、今の墓とは形が少し違います。「板碑型連碑」と呼ばれるこの墓の形は、江戸時代初期に見られ、市内でも珍しいものです。



東泉寺本堂と本間家の墓



# 4. 道標

隣の牧之原市相良は、昔から塩の産地として知られていました。ここで生産されていた塩は、菊川市や掛川市を通過して遠くに運ばれていました。また、御前崎市を通過して横須賀（現在の掛川市）へ向かう「横須賀街道」は、東西



横須賀街道と道標

右掛川堀之内道  
左横須賀中泉道

の交通の要所としてにぎわっていましたが、横須賀街道は、丸尾文六によって道はばが広げられるなど整備されました。

早苗町に残っている2つの道標は、明治30年（1897）に建てられたものです。現在の山下歯科医院横にある★印には「右掛川堀之内道」「左横須賀中泉道」と記されています。また、自動車のなかったころ、この辺りは人がたくさん行き交う場所であったことがうかがえます。



P28参照



## 5. 遠江射場跡と軽便鉄道駿遠線

第2次世界大戦中の昭和13年（1938）ごろ、竜今寺川（掛川市浜野）付近から白羽海岸付近までの遠州灘海岸では、旧日本軍の砲撃（大砲など）の試験や、射撃などの訓練が行われていました。



この射場への資材などを運んでいた軌道（鉄道）は戦争が終わった後、一般の人でも乗ることのできる鉄道（軽便鉄道駿遠線）になりました。駿遠線は、戦後、静岡鉄道が買い取り、新三保～地頭方をつなぎました。藤枝の大手駅～新袋井駅間は総延長64.4kmもあり、当時日本一の長さの軽便鉄道でした。

全盛期には、今のJRの駅以上にたくさんの利用客がありました。このころは自動車もまだめずらしい時代で、交通手段といえば自転車やバイク（原動機付自転車といわれるもの）、そして鉄道が主でした。

しかし、やがてバス、トラック、自家用車など、道路を中心とする輸送手段が急速に広がって、通勤通学の客がだんだんと減っていきました。

昭和39年（1964）に新三保～堀野新田間が廃止となったほか、経営に苦しい路線は次々と廃止され、昭和45年（1970）7月に最後まで残った大井川～新藤枝間が廃止となり、56年の軽便鉄道駿遠線の歴史が幕を閉じました。

### 軽便鉄道駿遠線路線図



軽便鉄道駿遠線「池新田駅」



### 寺や神社と石碑

寺や神社、学校などの近くで、右のような石碑を見かけたことはありませんか。石碑には、昔の地域の発展に尽くした人をたたえるもの（顕彰碑）や、日清・日露などの戦争で亡くなった人達の名前を記録したものの（慰霊碑）などの種類があります。



顕彰碑

慰霊碑

みなさんの近くにある石碑には、どんなことが記されているか、調べてみましょう。

**Q クイズ** 32ページの矢村宣昭の碑はどちらかな？

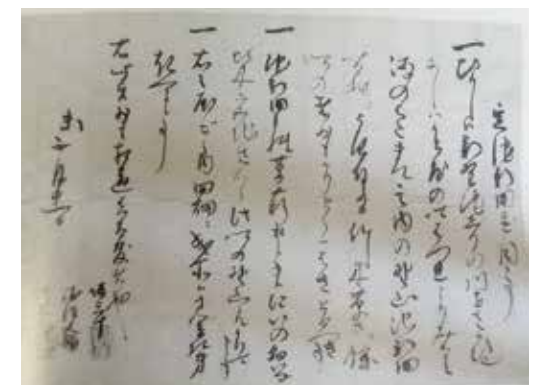
## トピック

### 本間家古文書からわかること

市指定有形文化財

本間家古文書は、代々池新田の大庄屋だった本間家に伝わる古文書です。

その内容は、戦国時代の領地についての書状や、江戸時代の新田開発や、年貢（税）の取り決め、土地の争いについての報告書などに大きく分けられます。



本間家古文書「定池新田置目事」

右に掲げた「定池新田置目事」という古文書は、慶長12年（1607）に出されたもので、池新田村の範囲や池新田の周りの5か村の野山に入って、生活に必要な「薪」を手に入れる権利などを定めています。野山もなく砂丘に囲まれた池新田村にとっては、生活のよりどころ的な古文書といえるでしょう。明治に入って、持ち主のわからない野山や海岸地は政府に没収されました。しかし、池新田はこの証文があり、「南は海の端まで」と、海岸地は村有地と認められました。

こういった古文書をとおして、当時の生活や土地の様子、地名の由来などを知ることができるのです。







# 1. 正福寺



正福寺本堂

正福寺は、暦応4年(1341)に機椿大僧都(真言宗)により、つくられました。本尊は、釈迦牟尼如来です。

山門は、木造、切妻造で四脚門になっています。これは、明治時代に、他寺院より移築されたものといわれています。



山門

## 西国三十三観音菩薩

宝永2年(1705)につくられ、正福寺の「鎮守様」と呼ばれる白山権現の社の横に祀られています。

西国三十三か所の観音菩薩を一つの石に彫り上げたもので、ここでお参りすれば、西国三十三か所をお参りしたことになるといわれています。



三十三観音菩薩

## 正福寺古文書

正福寺古文書は、天正2年(1574)高天神城主小笠原信興(長忠)より出された文書で、正福寺の田畑、山林等の年貢・諸役を免除する、事務職を怠らないようにという内容が書かれています。



正福寺古文書

# 2. 比木賀茂神社・社叢

県指定天然記念物

## 比木賀茂神社

賀茂神社は、和銅元年(708)、京都上賀茂神社より御神体を迎えてつくられたと伝えられています。



賀茂神社・社叢

## 社叢(森)

賀茂神社の鎮守の森として、700~800年以上にわたり、人の手が入らず、自然のまま残されてきました。そのため、植物の種類や量が変化しなくなり、この環境条件にあった植物によって安定した森ができあがりました。

## トピック

- 【主な樹木、植物】 スダジイ、ヤマモモ、ホルトノキ、タブノキ、ヤマビワ、オオバヤドリギ
- 【昆虫】 ヒメハルゼミ(7月下旬)、オオゴキブリ
- 【野鳥】 クロジ、ヤマガラ、アオゲラ、フクロウ
- 【ほ乳類】 タヌキ、アカネズミ



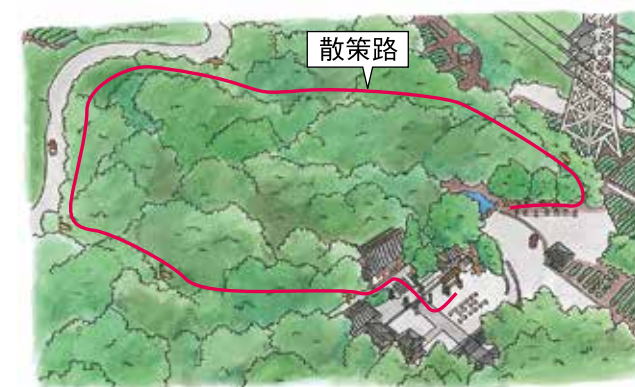
ヤマビワ

## ヒメハルゼミ

ギーオギーオと森の奥で1匹が鳴き出すと、やがてザーワザーワと森全体で鳴き出すといいます。鳴き声は聞こえますが小さいため姿が見えないので、昔から「お宮にすむ不思議なセミ」「まぼろしのセミ」「神様のお使い」などと地元の人々に呼ばれています。



ヒメハルゼミ



散策路

散策路が整備され、自然観察の手助けとなる案内看板も設置されています。夏には、ヘビやハチがいて危険なため、冬に散策するのが望ましいです。



### 3. 比木の山城

戦国時代、武田勝頼が高天神城を手に入れました。武田軍は、この城を維持するために食糧や武器の補給路が必要となりました。そこで、「つなぎの城」として比木の山城を改修しました。

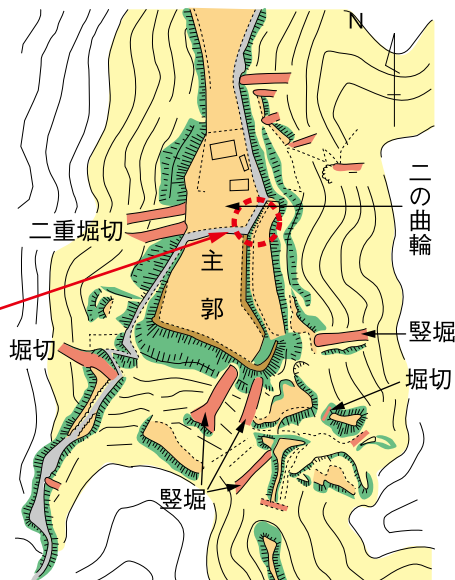
その他、同じようなつなぎの城が、新野・朝比奈にもあります。



P38・39参照



薬研堀



### 武田流築城法

武田氏が用いた築城法は、二重の空堀、横堀、大堀切など、堀の形態に特徴が見られます。

空堀の一つは、幅8.1mの大きな薬研堀になっています。

薬研とは：薬を調合する際に用いた道具で、その船の形をした器に、堀の断面が似ていることから、こう呼ばれています。



薬研

堀とは：敵の侵入を防ぐため、主に城などの周囲に掘られた溝のことをいいます。容易に越えることができない幅と深さがあります。

水が張られた堀を水堀、張られていない堀を空堀といいます。

### 郷土の発展につくした人

### 英語教育 ～矢村宣昭～

宣昭は弘化元年（1844）、矢村家の長男として江戸（東京都）で生まれ、その後、本県や東京の外国語学校などで教員として勤めました。

明治33年（1900）、正福寺門前に矢村義塾を開き数多くの門下生が宣昭の教えを受けました。

この碑は、大正12年（1924）、宣昭の徳を慕って門下生が建てました。



1844～1915



矢村宣昭碑

### 4. 薩田ヶ谷横穴群

市指定史跡

### 横穴群

薩田ヶ谷横穴群は、箴川流域最大の横穴群で、6世紀後半～8世紀初めごろにつくられた墓の跡です。

小高い丘の南斜面に6つの横穴があり、数多くの出土品が発見されています。これらの横穴は、家族を代表する家長というべき人物の墓としてつくられ、その後、家族墓（家族や子孫も葬られた）と考えられています。



薩田ヶ谷横穴群

副葬品（亡くなった人のために、いっしょに埋葬されたもの）

焼き物（灰色にかたく焼かれた須恵器、朱塗りの土製の土師器など）勾玉、丸玉を使った首飾り、金メッキされた銅製の耳環（みみわ：亡くなった人が死後の世界に旅立つ際の身だしなみとして埋葬されたもの）などが出土しています。

近くにある同時代の遺跡からは、これ以外にも、太刀、小刀、刀子などの鉄製品も出土しています。



出土品

### トピック

### 大陣原の経塚

明治時代、六角宝幢形経筒という六角形の経筒が出土されました。お経が入った経筒は、塚の中に納められ、この形は16世紀の中ごろから後半にかけて多いことが指摘されています。

大陣原には、現在も二ツ塚や十三塚と呼ばれる塚が残っています。この塚にも経筒が納められている可能性があります。



十三塚



六角宝幢形経筒

経塚



## 5. 首取坂くび とり ざか

池宮神社の東の首取坂と呼ばれる場所に、石碑が建っています。

天正6年（1578）、徳川軍の渥美源吾郎らは、武田軍の兵士とこの場所で合戦し、6名を討ち取ったといわれています。

この話は、徳川氏と武田氏が遠州高天神をめぐるし烈な戦いを記録した「高天神城記」に残されています。

渥美源吾郎は高天神衆として家康に信頼があった人です。



渥美源吾郎の石碑

## 6. 池宮神社ほんでん（本殿ほんでん **市指定有形文化財**）・桜ヶ池さくら が いけ

### 池宮神社社殿

池宮神社は、584年につくられたと伝えられています。本殿には、江戸時代中期の工法が見られ、拝殿は、技法から江戸時代末期に再建されたものと思われる。



池宮神社社殿

### トピック

#### 佐倉家本宅

佐倉家は池宮神社の神官の家です。この地方には珍しい風格をもった書院造が加味されたつくりとなっています。建築年代はおそらく江戸時代末期と考えられます。



## 桜ヶ池 **県指定名勝**

原生林に囲まれた桜ヶ池は、約2万年前に砂によってせき止められてできた堰止湖です。面積は約2万㎡、池の深さはいまでもって知る人がいない神秘的な池です。そのため、この池には、数多くの伝説があります。



桜ヶ池

### トピック

#### 県指定無形民俗文化財

#### 「桜ヶ池のおひつ納め」

平安時代末期、比叡山延暦寺の高僧、皇円阿闍梨は、世の中の人々を救うため自ら悟りを開こうと考え、さまざまな難行苦行を重ねました。

しかし、仏法をきわめることは大変難しく、阿闍梨は、人々を救うためには56億7千万年後に現れるという弥勒菩薩に会って教えをいただくほかに道はないと考えました。そこで、阿闍梨は長く生きられる龍に姿を変えて、桜ヶ池に入り、弥勒菩薩に会えることを待っています。

その後、弟子の法然上人が桜ヶ池を訪れ、師である阿闍梨の供養としておひつに赤飯をつめ、一つを神社に、もう一つを池の中央に納めました。

この習わしは「おひつ納め」となって、以来今日まで800年以上にわたり受け継がれてきました。現在でも、毎年秋、彼岸の中ひがし日ちゅうにち（秋分の日）に行われています。心身を清めたうしご氏子青年十数人が立ち泳ぎで池の中央まで進み、おひつを沈めて龍に供えます。数日のうちに空のおひつが水面に浮かび上がると願いがかなうといわれています。





# 浜岡北小学校のまわりのようす



## 1. 西原遺跡

西原遺跡は、御前崎市最古である縄文時代の磨製石器出土地です。平成7年（1995）に、2歳の女の子が、石器を茶畑で見つけたことで有名になりました。



トロトロ石器

縄文時代早期（約8,500～10,000年前）の石器で、約7cm、先端が丸みを帯び、2本の丸い「足」があるのが特徴で、つるつるに磨かれています。考古学では、磨かれたような状態を「とろけている」ということから、「トロトロ石器」と呼ばれます。

## 2. 南谷遺跡

南谷遺跡は、朝比奈川左岸の下朝比奈南谷に位置する、弥生時代中期後半から中世（約2,000～700年前）にかけての集落遺跡です。



南谷遺跡の水路跡

昭和40年（1965）に初調査が行われ、その後平成9～11年（1997～1999）にかけても発掘調査が行われました。そこからは、弥生～古墳時代の



の竪穴系平地住居跡、掘立柱建物跡、水路跡や大量の土器、木製品などが出土しました。木製品は農耕具と建築部材が主で、保存状態がよく、当時の生活を知ることができる貴重な資料です。

また、当時の人々が食料にしていたと思われるシカやイノシシなどの骨も多く出土しました。

## 3. 横舟埋蔵銭

明治35年(1902)に、上朝比奈横舟の西之谷で、水野嘉吉という人が畑の耕作中に、約160貫(600kg)におよぶ大量の銅銭を発見しました。600kgといえば15～20万枚の硬貨に相当しますが、長い間になくなってしまったものもあり、現在は1,708枚しか残っていません。



出土した埋蔵銭

この場所から出土したお金は、14世紀前半以降に埋蔵されたと考えられています。中国の銅銭が多く、全国的にもめずらしい、高麗（朝鮮半島）で作られた海東通寶（1097年铸造）や、西暦24年ころに後漢（現在の中国）で作られた五銖銭などの貴重な銅銭が含まれています。



## 4. 天ヶ谷の城平

天ヶ谷の城平は、新野の天ヶ谷と、菊川市高橋の境となる山の上に位置する城跡です。この城は、室町時代につくられたと考えられています。城のくわしいことはわかっていませんが、武田流の城のつくりが残っており、武田軍がこの城を改修したのではないかとされています。



天ヶ谷の城平



## 5. 伝 朝夷三郎の墓

朝比奈地区小泉に、朝夷三郎のものだと伝わる墓があります。朝夷三郎義秀とは、鎌倉時代の御家人です。最近では、この墓は朝比奈を治めた領主のものではないかともいわれています。

この墓は、宝篋印塔とよばれる仏塔の形をしています。



伝 朝夷三郎の墓

## 6. 閑田院・旧妙音庵薬師堂

閑田院は、明応5年（1496）につくられたと伝えられています。高天神城の合戦が繰り返され、付近一帯が戦場となった時期、閑田院の住職が一時避難したといわれています。しかし、後に玉山全盛大和尚という僧が再興し、住職となりました。閑田院は長篠の合戦時、徳川家康に命ぜられ、徳川軍が勝つようにお祈りをしました。そして徳川軍が勝ったため、徳川家の家紋である「葵の紋」を寺のしるしとすることを許されたといわれています。

安永年間に、雷による火事によって本堂が焼け、現在の本堂は、天明2年（1782）に再建されたものです。また、旧妙音庵薬師堂は、閑田院の末寺（閑田院の住職が開いた別の寺）として延宝9年（1681）に建てられたもので、現在でも薬師三尊・十二神将すべてがそろっています。



閑田院



旧妙音庵薬師堂

市指定有形文化財

## 7. 想慈院

閑田院の住職だった年叟永寿大和尚は、高天神城の戦乱が始まり、一時信州（長野県）へ避難しました。戦乱がおさまりに閑田院に戻ってみると、すでに他の住職が寺を再び開いていたため、天正3年（1575）近くの新野に寺を建てました。それが想慈院です。江戸時代につくられた、馬返しの階段（馬に乗ったまま入らないように、階段面が前に向かって斜めになっている）があります。



想慈院



馬返しの階段

## 8. 八幡平の城跡

八幡平の城跡は、新野原からつながっている連郭城（連続して並ぶようにつくられた城）です。新野には古くから新野氏がいたことから、新野氏の城だったと伝えられています。

この城は、武田氏によって改修されたと考えられています。尾根を横切る多くの堀は、武田流の築城法だといわれています。朝比奈・新野地区にはその他にも城跡があり、舟ヶ谷城（篠ヶ谷）、横舟城（横舟）などの山城があります。



八幡平の城跡

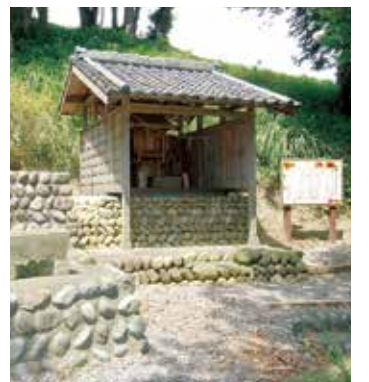


## 9. 新野左馬助親矩

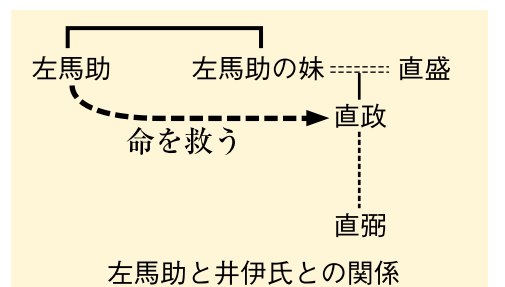
新野左馬助親矩は、今川氏の一族として遠江国新野を治めていた人です。

左馬助の妹は、徳川家康の家臣であった井伊直盛の妻でした。左馬助は、直盛の子である直政が敵に討たれようとした際に、命をかけて直政を守りました。直政は、後に徳川家康の四天王となり、滋賀県にある彦根城主となりました。

江戸末期の大老、井伊直弼は、直政の子孫にあたります。そして、直弼は、家来に左馬助の墓参りをさせたといわれています。新野の上組地区にある左馬武神社には、左馬助の墓と伝えられる石塔があります。



左馬武神社の境内





# 10. オットのトンネル

大正14年から昭和10年（1925～1935）まで、東海道線堀之内駅（現在の菊川駅）と池新田間を結んだ軽便鉄道があり、この軽便を「オット」と呼びました。

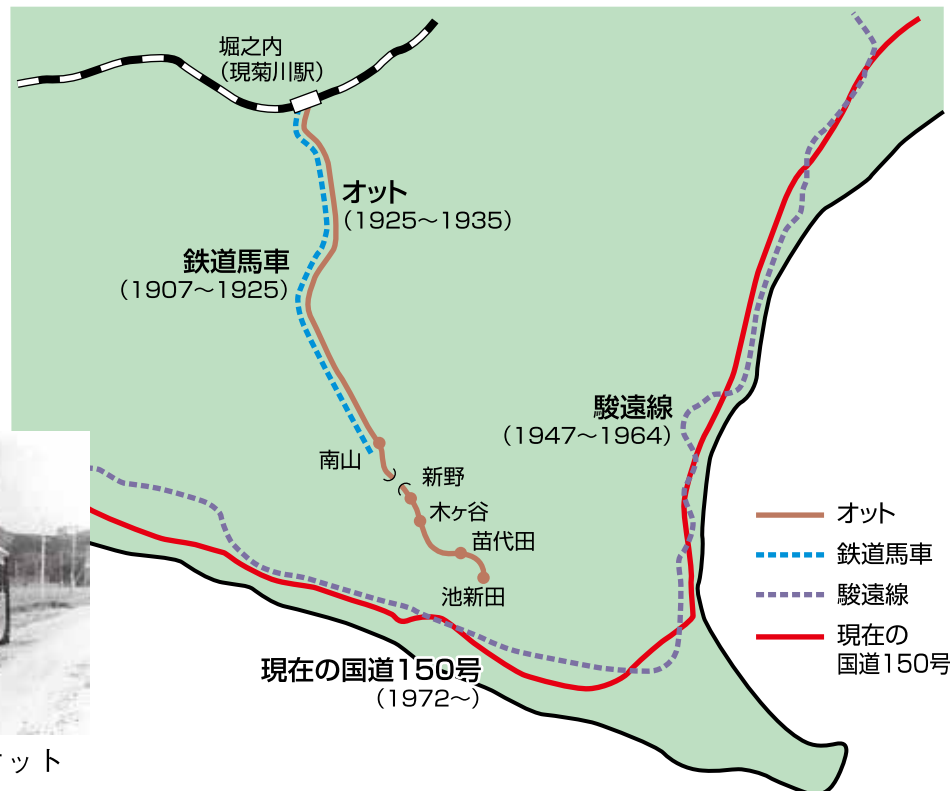
最初は客車を馬に引かせた馬車鉄道が走っていたのですが、その線路にドイツから輸入したディーゼル機関車を走らせました。それがオットです。オットという名前の由来ははっきりしませんが、この種類の機関車を販売するオットー・ライメルスというドイツの会社があり、それが由来ではないかと考えられます。

オットはこの地域の交通機関として重要な役割を果たしました。しかし昭和に入り、自動車の急速な普及により乗客が少なくなり、やがて姿を消しました。

新野木ヶ谷から菊川市高橋に通じるところに、オットが走っていたトンネルが残っています。このトンネルは、当時の様子を伝える貴重なものです。



オットのトンネル（旧小笠町方面より）



南山駅に止まっているオット

## 桜ヶ池にまつわる伝説

### 「池の平～まぼろしの池～」

浜松市天竜区水窪町の山中にある「池の平」では、7年に1度、奥深い山林の中に突然池が現れるという言い伝えがあります。

これは、桜ヶ池の底が諏訪湖（長野県）に通じていて、桜ヶ池に住む龍が諏訪湖への旅の途中で休けいするしるしといわれています。



### 「桜の前の伝説」

昔、国司が桜ヶ池のほとりで宴を開いていると、池の水がにわかにわき立って、牛が桜の前姫を池の中にひきずりこんでしまいました。怒った国司が国中のたきぎを集めてたくさんの石を焼き、池の中に転がし入れたところ、牛が突然現れ、役人が矢を放つと、今の駒取を通り、忍沢などに逃げたといわれています。



### 「本多利長と洪水」

延宝8年（1680）、江戸在勤中だった横須賀城主利長は、領内にある桜ヶ池の深さを知る者がいないと聞き、多くの家臣に深さを測らせました。しかし、知ることができず、それならば池の水を干して深さを知ろうと、早朝、農民を集め、堤を切り開くよう命令しました。

ところが、その日の夜半から、遠州灘は大暴風雨となり、翌朝高潮が起これ、浅羽（袋井市）一帯が大被害を受けると共に、横須賀城内においても被害が少なくありませんでした。





## 住職を救った猫の伝説

この伝説は、遍照院が猫塚の所にあった頃の話と伝えられています。

### 「猫塚・ねずみ塚」

ある日、一匹の子猫が、船の板の上にすがり沖の方へ流されていくのを住職が見つけ、漁師たちの助けを借りて、今にも死にそうな子猫を拾い上げて寺へ連れ帰りました。その後、子猫はすくすくと育ち、住職の言葉も聞き分けるほどになりました。ある春の日、一人の旅僧が寺にとまりました。その数日後隣の猫がやってきて子猫を伊勢参りにさそいましたが、猫は住職の身の上が何となく気がかりで断りました。そしてその夜、本堂の天井裏あたりでものすごい物音がしました。翌朝調べてみると、寺の猫と隣の猫が死んでおり、近くには衣をまとった古ねずみがたおれていました。旅僧に化け住職を殺そうとした古ねずみを寺の猫がいち早く見ぬぎ、隣の猫と力を合わせ身をもって住職の危機を救ったのです。村人は恩義に報いた猫を寺わきに手厚くほうむりました。また、近くの漁師が古ねずみを海に捨てようと運んでいきましたが、途中重くなったため、放り出して帰ってしまいました。するとその夜、古ねずみが夢の中に出てきて「もし私をまつてくれれば御前崎の漁業を守りましょう」といったので、お墓を建てました。猫塚もねずみ塚も本来の場所は不明です。



猫塚



ねずみ塚



## 箴川の河童伝説

昔、今の箴川橋の近くに、青く澄んだ深い淵がありました。その辺りは木々が生い茂り、とてもさびしい所でした。これは、この淵にまつわるお話です。

### 「箴川の河童とおべんヶ淵」

昔、この川の近くに、おべんという近所でも評判の美しい娘が住んでいました。

ある夏の日の夕方、おべんが箴川の土手を帰りながら、何気なく川を見ると川上からはた織りに使う\*箴が流れてきました。おべんが箴を拾おうと手を伸ばすと、箴はたちまち河童に姿を変えて、あっという間におべんを川の中に引きずり込んでしまいました。

翌朝、土手へ草刈りに行った村の人が青黒い淵の葦の茂みに浮かんでいるおべんの死体を見つけて大騒ぎになりました。引き上げられた体からは、\*尻子玉がぬかれていたので、はじめて河童の仕業とわかって村人は震え上がったということです。



おべんヶ淵

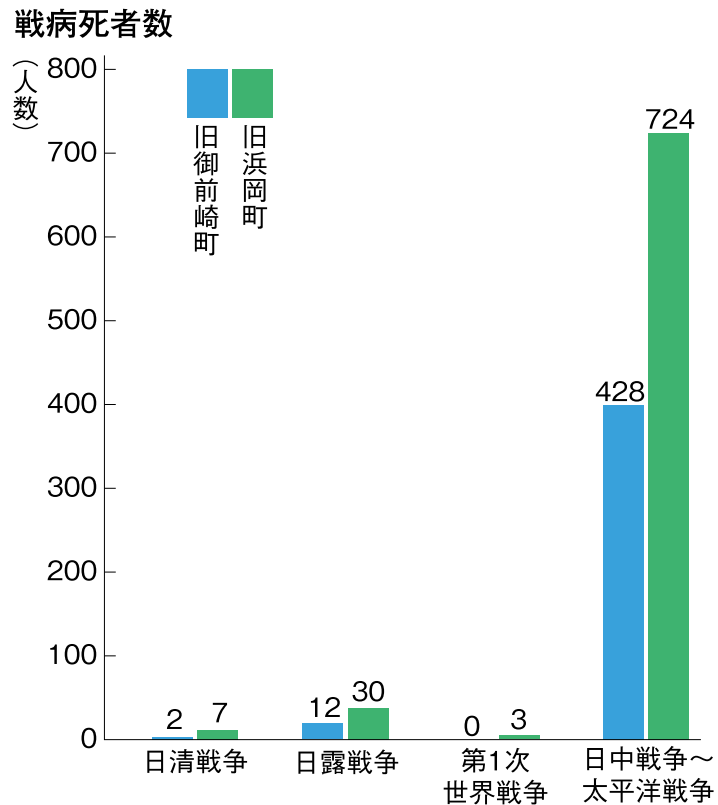
国道150号箴川橋北側、現在は河川改修により、石碑だけが建っていますが、河童伝説が残る場所です。

- \*【箴】 よこ糸を織り込んで引き締めるクシのような板。
- \*【尻子玉】 人の尻にあるといわれる想像上の臓器。河童の大好き。

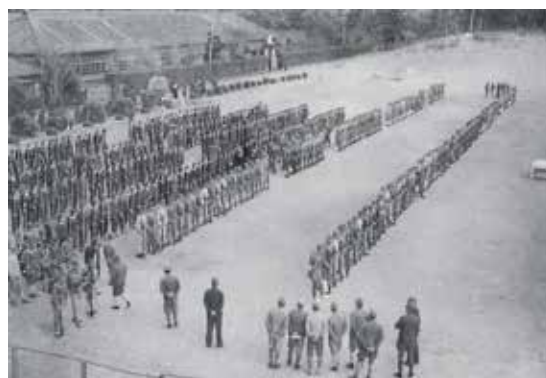


# 戦争についてくわしく調べよう！

## 御前崎と戦争(資料) 戦争体験を聞いてみよう、調べてみよう



出兵兵士



昭和18年頃青年学校軍事訓練 (白羽村小学校)

### 地区別従軍者・戦病死者数

		池新田村	比木村	朝比奈村	佐倉村	新野村	御前崎村	白羽村
日清戦争 (1894～95)	従軍者	22	5	13	12	8	37	15
	戦病死者	7	—	—	—	—	2	—
日露戦争 (1904～05)	従軍者	106	37	59	54	48	95	73
	戦病死者	14	1	8	4	3	5	7
第1次世界戦争 (1914～05)	従軍者	24	12	17	16	5	50	32
	戦病死者	2	0	0	1	0	0	0
日中戦争～太平洋戦争 (1931～45)	従軍者	—	—	—	—	—	—	—
	戦病死者	254	95	125	134	116	428	—

※「—」は資料が見つからなかった部分です。

### 御前崎防空監視哨記録

年	監視記録機種	監視記録数
昭和17年	B29	1機
昭和19年	B29、B24	175機
昭和20年	B29、B24、B34、B51、艦載機等	1,969機



昭和20年 米軍機の空襲を受けた灯台監視塔

資料：御前崎町史・浜岡町史より

### 御前崎港漁船の戦争被害状況

13隻沈没・撃沈 海軍軍属者(徴用含む) 戦死者114名

## ☆御前崎上空は、B29爆撃機の通り道！

昭和19年 6月 25日	白羽に大型焼夷弾が投下された。	昭和18年頃 消火訓練 バケツリレー
12日	合戸に爆弾が投下された。	
昭和20年 2月 25日	新野木ヶ谷に爆弾が投下され、2名死亡した。	昭和18年頃 御前崎村警防団 竹やり訓練
16日・19日	御前崎灯台付近に焼夷弾が多数投下された。	
4月 24日	蒲池に爆弾が投下され、3名死亡した。	
6月 19日	静岡が大きな空襲の被害を受けた。	
7月 25日	御前崎灯台付近に大型爆弾が投下され、灯台の屋根が大破した。付属建物宿舎も大破した。御前崎国民学校職員室ほか6教室も破壊され、防衛下士官が1名戦死した。	
27日	比木小学校校舎が機銃掃射を受けた。	
29日	浜松が艦砲射撃を受けた。	
30日	白羽国民学校が機銃掃射を受け全教室に被害が出た。爆弾投下により子供1名が死亡した。	
8月 10日	時限爆弾が投下され、その処理で3名死亡した。空襲等の被害があいつぎ死者14名、負傷者4名。	

◆遠江射場や池新田監視哨もたびたび銃撃を受ける

### 戦争の足跡 ～マーベル・ワレン人形・成田山不動明御堂～

「青い目の人形」とは、昭和2年(1927)にアメリカの子どもたちが日本の小学校に贈った、日米親交の人形のことです。昭和2年4月16日、ワレンちゃんは緑に囲まれた朝比奈小学校に生まれました。



マーベル・ワレン人形

市指定有形文化財

しかし、戦争がはげしくなると、当時の校長先生は、用務員さんにワレンちゃんを燃やすように指示しました。用務員さんは、「目のあるものには命がある。とても燃やすことはできない」と考え、ワレンちゃんをヤギ小屋にかくしました。

用務員さんのやさしさと勇気で、ワレンちゃんは戦争を生き抜き、浜岡北小学校に飾られていました。その後、平成20年に御前崎市有形文化財に指定されました。また、平成26年にワレンちゃんが持っていた切符も市の指定有形文化財に指定されました。今では、御前崎市教育委員会で大切に保管しています。

また、浜岡北小学校の北に成田山不動明御堂があります。この御堂は、もともと新野長ヶ谷地区にあったのですが、道路を広げる工事のために、ここに移されたものです。この御堂には、この地域から日清戦争に出征した兵士を記念した国旗が納められています。



成田山不動明御堂



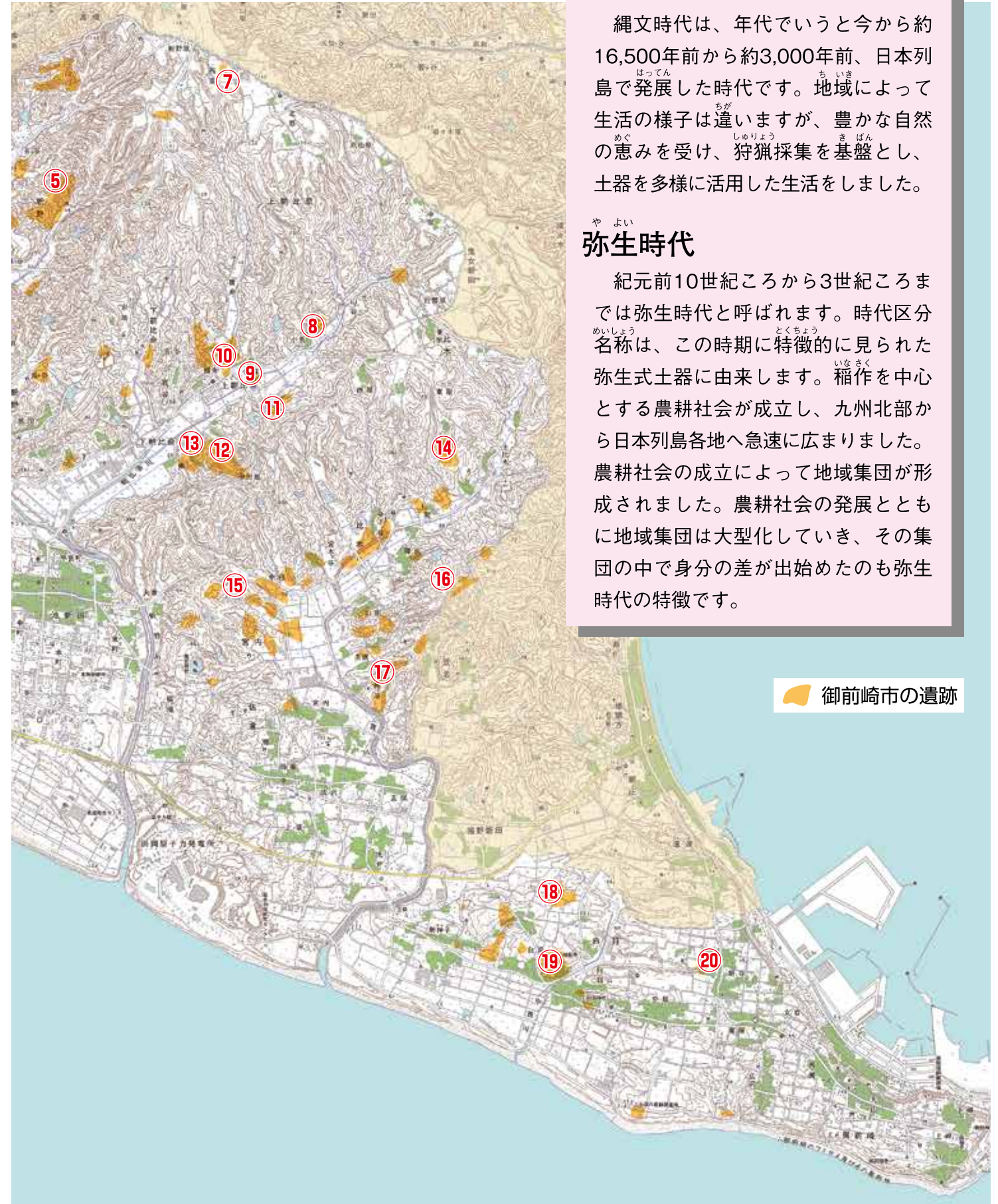
出征を記念した国旗



# 御前崎市の遺跡

## 【主要遺跡】

	時代	種別	所在地
①新野氏墓地	中世	墓地	新野宮田
伝新野左馬助親矩の墓。中世墓地と推測される。			
②天ヶ谷古墳	古墳	古墳	新野中西
御前崎市最大の大型円墳（高さ5.2m、墓底径36.7m）。			
③中西横穴群	古墳	横穴墓	新野中西
新野川流域を代表する横穴群（3群10墓）。			
④合戸村中遺跡	戦国	埋蔵銭出土地	合戸村中
北宋銭を主体とし、本邦初見の「至元通寶」を含む大量埋蔵銭出土地。			
⑤八幡平城跡	中世・戦国	城館	新野有ヶ谷～篠ヶ谷
今川系新野氏関連の城跡を戦国時代に武田氏が改修か。			
⑥幡室遺跡	弥生～奈良・鎌倉	集落跡	新野大明神
新野川流域を代表する大規模集落跡。 古代においては、新野川流域の中核であったと推測される。			
⑦西原遺跡	縄文	遺物散布地	上朝比奈奥原
御前崎市最古の縄文時代早期の異形局部磨製石器（トロトロ石器）出土地。			
⑧山ヶ谷古墳	古墳	古墳	上朝比奈山ヶ谷
静岡県内で3点しか出土していない、古墳時代の馬具である三環鈴が出土した古墳。			
⑨小泉遺跡	縄文～鎌倉	集落跡	上朝比奈大代・大代下
市内唯一の縄文時代の低湿地集落。 縄文時代晩期前半の住居跡が3軒発見されている。			
⑩横舟西之谷遺跡	中世～戦国	埋蔵銭出土地	上朝比奈茶屋前
後漢の五銖銭から琉球の大世通寶にいたる古銭45種が約160貫（600kg）出土した大量埋蔵銭出土地。			
⑪朝夷氏墓地	平安～江戸	墓地	上朝比奈宮ヶ谷
伝朝夷三郎義秀の墓。12世紀～16世紀の蔵骨器が出土。 平安～江戸時代にかけての墓地と推測される。			
⑫朝比奈城山	中世～戦国	城館	下朝比奈杉山
北麓には伝曾根屋敷跡存在しており、戦国武将である曾根孫大夫長一の詰城と伝えられている。			
⑬南谷遺跡	弥生～中世	集落跡	下朝比奈誰政・南谷
弥生～古墳時代前期の拠点集落。 弥生時代住居跡が10軒発見され、土器・木製品・石器等が多量に出土。			
⑭比木城山	中世～戦国	城館	比木多良ヶ谷・別所
中世期の建物跡が発見された。 比木氏の城館跡を戦国時代に武田氏あるいは徳川氏が改修か。			
⑮薩田ヶ谷横穴群	古墳	横穴墓	宮内薩田ヶ谷
学史的遺跡。6基からなる箴川流域を代表する横穴群（市指定史跡）。			
⑯大陣原経塚	室町	経塚	比木勝佐谷
市内唯一の「金銅製六角形経筒」が出土。 中世の信仰活動を顕著に示す古道として注目される。			
⑰梶ヶ谷横穴群	古墳	横穴墓	比木西ノ谷
市内唯一の組合式箱式石棺出土。 馬具や武器など貴重な金属製品が多量に出土。			
⑱星の糞遺跡	縄文	集落跡	白羽鳥居原
白羽地区を代表する縄文時代集落跡。 大量の縄文前期の土器や石器が出土（市指定史跡）。			
⑲上ノ城遺跡	古代・中世	官牧	白羽上ノ城
白羽官牧の比定地。			
⑳新谷遺跡	弥生	集落跡	白羽新谷
弥生時代後期初頭の土器や住居跡？が発見された遺跡で、 白羽地区の弥生時代遺跡として注目される。			



## 縄文時代

縄文時代は、年代でいうと今から約16,500年前から約3,000年前、日本列島で発展した時代です。地域によって生活の様子は違いますが、豊かな自然の恵みを受け、狩猟採集を基盤とし、土器を多様に活用した生活をしました。

## 弥生時代

紀元前10世紀ころから3世紀ころまでは弥生時代と呼ばれます。時代区分名称は、この時期に特徴的に見られた弥生式土器に由来します。稲作を中心とする農耕社会が成立し、九州北部から日本列島各地へ急速に広まりました。農耕社会の成立によって地域集団が形成されました。農耕社会の発展とともに地域集団は大型化していき、その集団の中で身分の差が出始めたのも弥生時代の特徴です。

御前崎市の遺跡



## ■資料提供（敬称略順不同）

駒形神社、海福寺、白羽神社、紅雲寺、増船寺、高松神社、  
下水神社、上水神社、東泉寺、閑田院、想慈院、正福寺、  
賀茂神社、池宮神社、佐倉家本宅、御前崎市役所各課

## ■使用文献

「御前崎町史」(御前崎町教育委員会)  
「御前崎町史写真集」(御前崎町教育委員会)  
「浜岡町史」(浜岡町教育委員会)  
「目で見る浜岡の文化財」(浜岡町教育委員会)  
「郷土の発展に尽くした人々」(静岡県教育委員会)  
「浜岡人物史」(浜岡町教育委員会)  
「浜岡人物史 佐倉・比木編」(浜岡人物史 佐倉・比木編 編集委員会)  
「浜岡町・閑町記念写真集『風紋』」(浜岡町教育委員会)  
「朝比奈川流域と池新田の文化財」(御前崎市教育委員会)  
「わたしたちの御前崎市」(御前崎市教育委員会)  
「おまえざきの伝説と文化財」(御前崎町教育委員会)  
「ふるさとの岬」(御前崎町郷土史研究会)  
「文化財ガイドブック」(静岡県教育委員会)  
「のびゆく御前崎」(御前崎町教育委員会)  
「わたしたちの浜岡町」(浜岡町教育委員会)  
「ふるさとの碑 御前崎」(静岡県出版文化会)  
「おまえざきの文化財」(御前崎町教育委員会)  
「軽便鉄道の思い出」(阿形 昭 著)  
「『桜ヶ池のお櫃納め』と佐倉の民俗」(浜岡町教育委員会)  
「比木文化財マップ」(文化財資料づくり研究会・比木公民館)  
「箴川流域の文化財」(御前崎市教育委員会)  
「新野未来塾(ホームページ)」(代表 西島昌和)

---

## 『わたしたちの御前崎市～歴史編～』作成にたずさわった人たち

### 御前崎市社会科副読本作成委員会

【2023(令和5年)年4月発行】

監 修 鈴木秀和（御前崎市教育委員会学校教育課長）  
作成委員長 吉村紳治郎（第一小学校校長）  
作成委員 市川 貴千（御前崎小学校教諭）  
沖 航（白羽小学校教諭）  
松本 昌幸（第一小学校教諭）  
天野 利宏（浜岡東小学校教諭）  
鈴木 宗康（浜岡北小学校教諭）  
事務局 飯野由美子（学校教育課指導主事）